

生活機能低下を防ごう！

「生活不活発病」に注意しましょう

生活不活発病とは…

「動かない」(生活が不活発な)状態が続くことにより、心身の機能が低下して、「動けなくなる」ことをいいます。

避難所での生活は、動きまわることが不自由になりがちなことに加え、それまで自分で行っていた掃除や炊事、買い物等などができなかったり、ボランティアの方等から「自分達でやりますよ」と言われてあまり動かなかったり、心身の疲労がたまったり…また、家庭での役割や人との付き合いの範囲も狭くなりがちで、生活が不活発になりやすい状況にあります。

予防のポイント

- 毎日の生活の中で活発に動くようにしましょう。
(横になっているより、なるべく座りましょう)
- 動きやすいよう、身の回りを片付けておきましょう。
- 歩きにくくなても、杖などで工夫をしましょう。
(すぐに車いすを使うのではなく)
- 避難所でも楽しみや役割をもちましょう。
(遠慮せずに、気分転換を兼ねて散歩や運動も)
- 「安静第一」「無理は禁物」と思いこまないで。
(病気の時は、どの程度動いてよいか相談を)

※ 以上のこと、周囲の方も一緒に工夫を
(ボランティアの方等も必要以上の手助けはしないようにしましょう)
※特に、高齢の方や持病のある方は十分気をつけて下さい。

発見のポイント

～早く発見、早く回復を～

「生活不活発病チェックリスト」
を利用してみましょう。

要注意(赤色の□)にあてはまる場合は、保健師、救護班、行政、医療機関などにご相談下さい。

地震後に、
歩くこと等が
難しくなった
方も注意が
必要です。

地震前から要注意(赤色の□)に
あてはまる方は注意が必要です。

地震前と現在を比較して、
1段階でも低下した方は、
注意が必要です。

生活不活発病チェックリスト	
～⑥の項目について、 ▲(左側)と □(右側)のあてはまる状態に印[□]をつけてください。	
①屋外を歩くこと	
□	遠くへも人で歩いている 近くへも人で歩いている 誰かと一緒に歩いている ほとんど外は歩いていない 外は歩けない
②自宅内を歩くこと	
□	何度も家から離れて歩いている 壁や家具を伝わって歩いている 誰かと一緒に歩いている 遠くへ歩いて歩いている 自分で歩けなかった
□	何もつかまらずに歩いている 壁や家具を伝わって歩いている 誰かと一緒に歩いている 遠くへ歩いて歩いている 自分で歩けない
③身の回りの行動(入浴、洗面、トイレ、食事など)	
□	外出時や旅行の時にも不自由はなかった 自宅内では不自由になった 誰かと一緒に歩いたり歩かしてもらっていた 誰か人の手を借りていた ほとんど歩けさせてもらっていた
□	外出時や旅行の時にも不自由はない 自宅内では不自由はない 誰かと一緒に歩いている 時々人の手を借りている ほとんど助けてもらっている
④車いすの使用	
□	使えていなかった 時々使っていた いつも使っていた
□	使用していない 時々使っている いつも使っている
⑤外出の回数	
□	ほぼ毎日 週3回以上 週1回以上 月1回以上 ほとんど外出していなかった
□	ほぼ毎日 週3回以上 週1回以上 月1回以上 ほとんど外出していない
⑥日々のくらし体を動かしていますか	
□	外でもよく動いていた 家の中でもよく動いていた 誰かと一緒に歩いた 誰かと一緒に歩かしてもらっていた ほとんど歩けなくなっていた
□	外でもよく動いている 家の中でもよく動いている 誰かと一緒に歩いている 誰かと一緒に歩かしてもらっている ほとんど歩けなくなっている
次のことはいかがですか？	
⑦	地震の前より、歩くことが難しくなりましたか？ □変わらない □難しくなった
⑧	誰かにも、難しくなったことはありますか？ □ない □ある → □和式トイレをつかう □段差(高い場所)の上り下り □床からの立ち上がり □その他(具体的に記入を)

氏名 (男・女・才) 月 日現在

*このチェックリストで、赤色の□(一要よい状態ではない)がある時は注意してください。
*特に、▲(左側)と比べて、□(右側)が1段階でも低下している場合は、早く手を打ちましょう。